

身近な「人々，社会，自然」と直接かかわる活動を通して，楽しさとともに知的な気付きを引き出し，自立し生活を豊かにするための資質・能力の育成を目指した授業づくり

日立市立久慈小学校

1 はじめに

本校では、「感謝の心を大切にし 目標に向かって自ら進んで挑戦する たくましい久慈っ子の育成」を教育目標に掲げ，特色ある教育活動の充実・展開を図っている。その中で，生活科では，身近な「人々，社会，自然」と直接かかわる活動を通して，楽しさとともに知的な気付きを引き出し，自立し生活を豊かにするための資質・能力を育成することを目指し研究している。

今回は，1年生の「おもしろいあそびがいっぱい」という単元の中で，シャボン玉づくりをした実践を紹介する。児童の思いや願いを実現する体験活動の工夫と，「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの多様な学習活動を取り入れた授業の展開に重点をおき，知的な気付きを引き出し，気付きの質を高めることをねらいとした実践である。

2 指導案

(1) 単元 おもしろいあそびがいっぱい 「せかいにひとつのシャボン玉をつくろう」

(2) 単元の目標

- ① 夏の自然遊びや行事に関心を持ち，みんなで楽しく遊ぼうとする。 (生活への関心・意欲・態度)
- ② 必要な道具などを使い，工夫して遊んだり作ったりすることができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- ③ 季節の変化，自然物で遊んだり作ったりする楽しさ，みんなで遊ぶ楽しさに気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

(3) 指導について

① 単元について

本単元は，学習指導要領の内容(5)「身近な自然を観察したり，季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりするなどして，四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち，自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」(6)「身近な自然を利用したり，身近にあるものを使ったりするなどして，遊びや遊びに使う物を工夫してつくり，その面白さや自然の不思議さに気付くこと，みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」をねらいとして構成されている。

第1次では，夏の季節を感じるとともに，身近な素材を工夫して遊び道具を作り，友達と楽しくシャボン玉遊びをする。活動を通して，遊び自体を十分に楽しみ，友達とのかかわりを深めたり広げたりする。

第2次では，育ててきたアサガオの花を使って色水遊びや，押し花，たたき染め遊びをする。自分が作った物を使って，小物を工夫して作る活動を通して，自分たちの生活を工夫して楽しむことができることをねらいとしている。

② 児童の実態

事前調査の結果

(33名 平成30年6月15日実施)

ア	シャボン玉遊びをしたことがありますか。	はい	28名	いいえ	5名
イ	シャボン玉液を作ったことがありますか。	はい	24名	いいえ	9名
ウ	どんな材料を使いましたか。(複数回答)				
			・石鹸…20名	・シャンプー…14名	・食器用洗剤…13名
				・ボディーシャンプー…12名	
エ	ストロー以外の道具でシャボン玉遊びをしたことがありますか。	はい	3名	いいえ	30名
			・うちわのほね…3名	・フラフープ…2名	・布団たたき…2名(複数回答)

調査の結果から、シャボン玉液を作ったことがある児童は24名いることが分かった。普段の生活の中で、石鹸で手を洗った際や、入浴の際に、手でシャボン玉を作って遊んだことがあり、シャボン玉遊びは、クラスの児童にとって身近な遊びである。しかし、その一方で、シャボン玉遊びの経験がない児童が、5名いることが分かった。また、ストロー以外でシャボン玉遊びをしたことがある児童は少ない。中には、うちわのほねや布団たたきなどの穴が開いている道具を使ったり、フラフープを使って大きなシャボン玉作りに挑戦したりしたことがある児童もいる。このことから、児童によって経験の差が大きいことが分かる。

③ 指導観

シャボン玉の計画の段階では、一人一人が作ってみたいシャボン玉の絵を描き、イメージを膨らませることで、それぞれの思いをもって活動に取り組めるようにする。道具作りでは、試作品を実際に試す活動を取り入れ、自分の見通しと事実が異なることについて「どうしてそうなったのか」理由を考えさせることで、自然の不思議さに気付くようにしたい。また、シャボン玉の経験がない児童や十分に体験したことのない児童の考えも尊重し、試す活動を十分に味わわせたい。失敗や成功体験を基に、何度も繰り返す中で、友達のやり方と比べたり、違う方法で試したりすることで、気付きの質を深めていく。さらに、完成した道具を使ってシャボン玉遊びをする活動では、遊び自体を十分に楽しみ、友達と競い合ったり、力を合わせたりすることで、友達のよさや自分との違いに気付くとともに、相手の考えを尊重する態度を身に付けられるようにする。

単元を通して、一人一人が思いをもって活動できる場の設定を工夫する。作りたいシャボン玉について、似ている考えをもっている友達と集まり、意見を交換したり協力したりして、グループという枠組みのない中で、自主的な交流ができるようにしたい。友達との自由なかかわり合いを通して、友達と一緒に遊ぶことのよさや面白さを実感するとともに、手作りの道具で遊ぶことの喜びや、自然の色彩が鮮やかになる夏という季節に遊ぶシャボン玉遊びの楽しさに気付くことができるようにする。

(4) 指導・評価計画(6時間取り扱い)

第1次 たのしいあそびがいっぱい・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間

時	学習活動・内容	評価基準(評価方法)		
		関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
1	どんなシャボン玉が作りたいかイメージをもち、道具を作る計画を立てる。	シャボン玉遊びに関心をもち、楽しもうとしている。 (観察)	どんな道具を作りたいか考えている。(観察・カード)	
2	作りたいシャボン玉のイメージを基に、身近な材料を使って遊ぶ道具を作る。		シャボン玉遊びに必要な材料や道具を考えて作っている。 (観察)	
3	作った道具で、シャボン玉遊びをする。		シャボン玉を吹くときの息の加減や道具の使い方を考え、工夫して遊んでいる。 (観察)	シャボン玉遊びの中で夏らしい遊びのよさに気付いている。 (観察・カード)

第2次 きれいにできたよ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間

(5) 本時の学習

① 目標

- ・ シャボン玉遊びに必要な材料や道具を考えて作ることができる。

② 準備・資料

ア シャボン玉遊びの写真 イ キーワードの掲示物 ウ 計画カード エ 身近な材料 オ はさみ
カ 道具の試作品 キ カッター ク カッターマット ケ シャボン玉液

③ 展開

◎は生徒指導の機能 ㊦は個に応じた支援 ㊧は評価

学習活動・内容【学習形態・準備・資料】	教師の支援
1 本時の学習課題を確認する。 【一斉・ア、イ】 「せかいにひとつのしゃぼんだま」のどうぐをつくろう。  < 資料① 学習カードのキーワード >	・ 昨年の1年生のシャボン玉遊びの写真を提示し、活動意欲を高めるられるようにする。 ・ 活動の流れを確認し、全員に見通しをもたせるとともに、「見付ける」、「比べる」、「試す」、「見通す」「工夫する」の学習活動のキーワードを掲示する。 ・ 座席は、事前に行った計画書を基に、似ているイメージをもつ児童が集まるように配置する。 ・ 物を作ることができるスペースを十分に確保し、道具作りに集中できるように配慮する。

2 身近な材料を使って遊ぶ道具を作る。 【個別・グループ】 (1) 計画カードで作りたいものを確かめる。 ・大きなシャボン玉を作りたい。 ・小さなシャボン玉を作りたい。 ・できるだけたくさんのシャボン玉を作りたい。 ・割れないシャボン玉を作りたい。 ・いろいろな形のシャボン玉を作りたい。 ・長いシャボン玉を作りたい。 (2) 道具作りをする。  ＜ 資料② 活動形態の工夫のようす ＞ 3 本時の振り返りをする。 【一斉・ウ】 ・計画カードに振り返りを記入する。 「せかいにひとつのしゃぼんだま」のどうぐをつくる。 ①たのしくつくった。 ②くふうしてつくった。 ③じょうずにできた。 ④ともだちときょうりよくした。	・持ってきた材料をどのように使って道具を作るのかを確かめるために、前時で書いた計画書を見直すことを助言する。 ・はさみの使い方や道具の使い方を確認する。 ◎近くの友達と相談しながら作ってよいことを伝える。 (共感的人間関係) ㊦ 手先が器用でない児童や作り方が分からない児童には、自分の作りたいものとイメージが似ている友達に相談をしたり、作り方を教えてもらったりしてもよいことを伝える。 ㊦ ヒントコーナを設置し、道具の試作品や昨年度の写真を手掛かりに、作り方を確認できるようにする。 ◎早く終わった児童には、シャボン玉液を使って、自分の道具のできあがりを確かめるよう助言する。 (自己決定) ◎道具のよいところや工夫している点を称賛する。 (自己存在感) ㊦ シャボン玉遊びに必要な材料や道具を考えて作ることができたか。 (観察) ＜目標を達成した児童の姿＞ 計画カードを基に、材料を選び、改良したり工夫したりして道具を作っている。 ・次時の意欲を高めるために、校庭で実際にシャボン玉遊びをすることを伝える。
---	--

3 成果と課題

児童の思いや願いを実現するために、体験活動を工夫し、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を取り入れた授業を展開することで、児童が主体的に活動することができた。また、活動自体を十分に楽しみ、失敗や成功体験を繰り返す中で、知的な気付きを引き出し、気付きの質を高めることができた。子供たちは、自分のねらいを達成したことで、自信をもち、成長を実感していた。

しかし、本授業のために準備時間を多く費やした。單元ごとに、どの活動に重点をおくのか精選し、計画を立てて進めていくことが必要である。